

K 短期大学における「児童文化」の取り組みについて

A study on 'Children culture's' approach at K junior college

関 根 久 美

(こども学科 専任講師)

要旨 筆者は、平成20年度から3年間、K短期大学において非常勤講師として「児童文化Ⅰ」の授業を担当した。この授業は教科書を使用せず、筆者の保育現場での経験とT専門学校で担当した「保育内容（表現）」での授業内容の一部、また、その他の養成校で実践した授業内容の一部を、口頭や板書そして実践で学生に指導してきた。本稿は、それを整理し、改めて「児童文化Ⅰ」の授業内容を確認するものである。今までの授業内容を客観的な視点で整理することによって、問題点、今後の課題を見つけ出し、本学における科目「こどもと文化」の授業内容の充実を図っていくための資料としていく。

【キーワード：児童文化財 季節の行事 伝承遊び】

I はじめに

「児童文化」という科目は、養成校によってその名称は様々であるが、保育士資格取得において必修となっている場合が多い。「児童文化財の実践」「日本文化の伝承」「保育文化の理解と実践」などが授業で使用される教科書の内容となっている。筆者は平成20年度から3年間この「児童文化」という科目の担当として、計15クラスの授業を実践したが、いわゆる教科書は使用せず、口頭や板書、そして自らが歌や制作活動、遊びを実践することと、学生たちの実践で授業を進めてきた。教科書に掲載されている内容は独自の進め方で学生に指導してきたが、それを詳細に記録せずにきたため、

保育士資格取得のための重要な指導内容が抜けていたり、指導方法に間違いがあっても改善されていないという現状があると考えられる。今回、K短期大学での3年間の授業内容を整理し、確認することで、改めて授業の正当性、授業進行・手順の是非、学生の理解の有無などを検証していく手がかかりにしていきたいと考えている。そして、23年度開講予定である本学の「こどもと文化」の授業における授業展開の参考資料とし、そこでの課題を見出し、今後の研究テーマとしていきたい。

II 内容

1, シラバス

科目名 児童文化Ⅰ

半期	2単位	必修	対象学年 1年生
----	-----	----	----------

氏名 関根 久美

【授業概要・到達目標】

保育園・幼稚園生活の中での様々な文化的活動について、体験的に学習し理解を深める。

子どもに豊か遊びを提供し、援助することができるよう、児童文化財を形づくる「もの」「素材」「環境」についての知識と技術を身につけ、それらを活用する力をつける。

子ども達の目線で「遊び」の楽しさ、奥深さを知るよう、学生自らが「遊び」を楽しむ。

【授業のねらい・方法】

児童文化財、季節や行事などの文化に親しみ、身近な素材を使った制作活動に取り組む。

実習で役立つ手遊びや歌遊びを学ぶ。

【授業形態】（履修条件）

講義、演習、制作、発表

[各回の授業計画（内容）]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第 1 回内容		オリエンテーション 児童文化とは		プリント
第 2 回内容	制作の準備	季節の行事① (入園式・こどもの日等)	日常生活に応用	以下同様
第 3 回内容	資料収集	絵本 (読み方・選択のしかた)	家族、友人に発表	
第 4 回内容	制作の準備	ペープサート (理解と制作)	作業を進める	
第 5 回内容	制作の準備	季節の行事② (母、父の日等)	日常生活に応用	
第 6 回内容	資料収集	紙芝居 (演じ方の実践)	家族、友人に発表	
第 7 回内容	資料収集	素話・エプロンシアター (理解と実践)	資料収集	
第 8 回内容	制作の準備	季節の行事③ (七夕・プール等)	日常生活に応用	
第 9 回内容	制作の準備	パネルシアター (理解と制作)	作業を進める	
第 10 回内容	制作の準備	パネルシアター (制作)	作業を進める	
第 11 回内容	制作の準備	季節の行事④ (運動会・七五三等)	日常生活に応用	
第 12 回内容	資料収集	伝承遊び (わらべうた遊び等)	実践する	
第 13 回内容	制作の準備	季節の行事⑤ (クリスマス・正月等)	日常生活に応用	
第 14 回内容	制作の準備	季節の行事⑥ (節分・ひなまつり等)	日常生活に応用	
第 15 回内容		まとめ		

【評価方法】

課題提出、筆記試験

【評価基準】

課題提出 40 点 筆記試験 60 点

【テキスト】

必要に応じて資料を配布

【参考文献】

必要に応じて紹介

2, 季節の行事（園の行事）

保育園、幼稚園で行われている行事，日本文化として伝えておきたい行事などを，4月から時期

を追って解説し，いくつかの行事については，実際に現場で実践されている制作をしたり，歌をうたったりと演習中心の授業展開をした。

行事の名称	日程（時期）	内容	指導のポイント
入園式	4月上旬	子ども、保護者の様子	・保は、4/1日からスタート
花まつり	4月8日	釈迦の誕生日	・仏教園のみ
G・W	4/29～5/6位	祭日の名称の確認	・終了後の子どもたちの様子は入園時に戻る。
こどもの日	5月5日	端午の節句の由来 こいのぼり・かぶと制作	・この時期の制作なので、はさみやのりの指導をする。
母の日	5月第2日曜日	プレゼントづくり・歌	・家庭環境の把握の必要性
春の遠足	4月～5月	場所やねらいについて	・保護者の親睦を兼ねる場合もある。
虫歯予防デー	6月4日	歯みがき指導（歌など）	・乳歯と永久歯についても触れる。
時の記念日	6月10日	時計制作・歌	・幼児の時間の感覚について
父の日	6月第3日曜日	ネクタイづくり	・家庭環境の把握の必要性
七夕	7月7日	由来・笹飾り制作・歌	・笹が無い場合の制作
夏祭り （夕涼み会）	7月～8月中旬	装飾（うちわ、風鈴など） 盆踊りの紹介	・屋外での指導の留意点
プール	6月末～8月	プールの種類・水遊びの紹介	・安全のための人数確認、健康チェック
夏休み	幼のみ		・保には無い理由の理解
夏季保育	幼のみ	お泊り保育など	・8月の保育料との関係
防災の日	9月1日	避難訓練の内容	・幼児に恐怖を与えない指導
敬老の日	9月中旬月曜日	園児の取り組み （祖父母参観・手紙など）	・祖父母＝敬老でない現実の理解
運動会	10月上旬	ねらいの理解と競技について	・あくまでも子どもの運動が主体であること。
秋の遠足	10月～11月	芋ほり・動物園・水族館	・収穫の喜び、生物への興味・関心の理解
七五三	11月15日	由来・千歳飴袋制作	・お宮参りが目的（着飾り、写真を撮ることではない）
クリスマス	12月25日	由来・ツリー制作	・宗教行事の取り扱いについての理解
正月	1月	正月遊び・お飾り	・日本の伝統についての理解
節分	2月3日	由来・歌・面・角箱制作	・旧暦についての理解
ひなまつり	3月3日	由来・歌・雛人形制作	・段飾りの詳細を知る
卒園式	3月中旬～下旬	歌・6歳児の実態	・保は3/31まで登園する

3, 児童文化財

(1) 絵本

- ・絵本の持ち方, めくり方, 立ち位置, 視線などを解説し, ひとつひとつの動作に意味があることを説明する。
- ・読み聞かせ者は「作者の作品の代弁者」であることを伝え, 本の内容を吟味することの大切さを知らせる。
- ・年齢にあった絵本の選択の仕方を具体的に解説する。
 - 1, 2 歳児 絵が大きく単純なカタログ形式を好む。集団での読み聞かせの場合, 「触りたくなる」内容のものは不向きなど
 - 3 歳児 言葉の繰り返しを好む。簡単なストーリーが理解できるなど
 - 4 歳児 科学的な本にも興味を示す。自分と身近な登場人物に親近感を覚えるなど
 - 5 歳児 何日かにわたって, ひとつの作品の読み聞かせが可能。生死が理解できるようになる。「おち」がある作品も理解できるなど

(2) 紙芝居

- ・ビデオ「紙芝居のはじまりはじまりー紙芝居の上手な演じ方ー」(サン・エデュケーショナル)を視聴し, 「紙芝居は読むのではなく, 演じるもの」という基本を理解する。早さ, 強弱, 間の取り方の具体的な演じ方を学習する。
- ・実際の紙芝居をグループ毎で実践し, 持ち方, めくりかた, 「演出ノート」の確認, 演じ方などを体験する。

(3) 素話

- ・はじめに教員の素話を聞き, 「何も見ない, 見せないで, 言葉だけでストーリーを伝える」素話の本質を理解する。
- ・「視覚的要素が無い」ことが, 子どもにとってどんな効果を生み, 何が育つのか考える。
- ・「おはなしのろうそく」(東京子ども図書館編)を参考図書として紹介する。

(4) ペープサート

- ・はじめに教員の作品発表を見て, 「ペープサート」のおもしろさを体感する。
- ・「表裏の変化を楽しむこと」というペープサートの基本を意識した作品づくりを指示し, 学生たちがオリジナルの作品を作成する。
- ・子どもたちにとって「見やすく, 理解でき, 楽

しいもの」であるべきことを伝え, 個々に指導する。角をとって安全に配慮すること, 字は不要であることを指導する。

学生作品



(5) パネルシアター

- ・はじめに教員の作品発表を見て, 「パネルシアター」のおもしろさを体感する。
- ・ビデオ「パネルシアターはじめの一步」(紀伊国屋書店)を視聴し, パネルシアターのしくみ, 素材, 作成の仕方, 演じ方などを学習する。各自, 絵の具, 油性ペンの準備をする。
- ・図書館にてパネルシアターの参考図書から作成する題材を選択し, 型紙をコピーし, 作成を開始する。必要な「Pペーパー」は教員が何枚か用意し, 不足分は自分たちで調達するよう販売店等を伝える。
- ・作品に必要な「しかけ」つくりや, 色塗りの工夫は個別に指導する。

学生作品

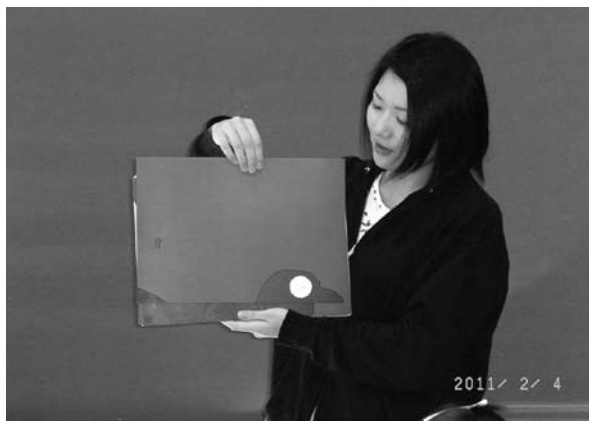


(6) 発表

上記(1)から(5)までの児童文化財のいずれかを, 学生が前に出て, 発表をする。発表する

文化財は事前に「くじ引き」により決定する。(9回目の授業から、1日5～6人)

発表の様子



4, 伝承遊び

伝承遊びとは、長い間、子どもたちによって遊ばれ、伝え継がれている遊びの総称で、ひとりで遊ぶもの、集団で遊ぶもの、また、物を使用するもの、物を使用せず、歌や語りで遊ぶものがある。授業では、そのいくつかを紹介し、実際に遊ぶ機会を設ける。そして、遊びの楽しさをこの先の子どもたちに伝承していくことも保育者の使命であることを説明し、実習や現場で実践するために、学生自身が遊んでみて、その遊びの楽しさを実感することが必要であると指導する。

(1) 物を使用するもの

おりがみ・竹馬・おはじき・お手玉・こま・ベーごま・たこ・竹とんぼ・だるま落とし・紙ふうせん・あやとり・まりつき・なわとびなど

(2) 物を使用しないもの

はないちもんめ・だるまさんがころんだ・鬼ごっこ・かくれんぼ・あぶくたった・かごめ・ずいずいずいころばし・おちゃらか・お寺の和尚さん・おせんべやけたかな・なべなべそこぬけ・おしくらまんじゅうなど

5, その他

毎回、授業のはじめに「手遊び」を紹介する。あえて、プリントを配布せず、自分が後々振り返って歌い、動けるような記録をするよう指示し、記録のための時間を設ける。

III 評価

シラバスにあるように、ペープサート、パネルシアターの作成、提出による評価を40%、筆記試験での評価を60%とした。筆記試験の内容は、季節の行事に関する穴埋め問題、児童文化財に関する記述問題、折り紙の実践、手遊びの記述問題である。文化財の発表に関しては、学生がくじ引きでひいた文化財の種類が異なり、評価の基準を設定することが難しいため、あえて評価からはずしている。

IV まとめと今後の課題

本稿作成の作業により、3年間の指導内容をまとめることができた。改めて検証してみると、内容が多岐にわたりすぎていて半期15回の授業内容としては、内容が多すぎ、ひとつひとつを深める作業ができていたのかという疑問が残った。実際の授業の中では行事の制作物の手順、行事で家庭や園で行うことの詳細な説明、現場での子どもの

様子、学生それぞれがどのような経験をしているかなど、さらに盛りだくさんとなっている。はたして、学生はそれすべてを咀嚼し、自分自身の学習として理解できたのだろうか。筆記試験では、ほとんどの学生が合格点を取ってはいるが、中には、「理解ができていない」という回答も目につく。本来は「遊び」の楽しさを体感することも目的としている授業である。楽しさを実感してその体験を文章化したり、応用する遊びにつなげていく工夫の考察も必要であるのではと考える。

今後は、この授業によって学生たちが「何を感じ」「何を学び」「実践することができたか」「わからなかったことは何なのか」といった学生の声を聞くことによって、内容の選別や、時間配分、集団指導と個別指導のバランスなどの指導方法の改善が必要である。本稿は授業のまとめのみであったが、この先、学生アンケートをとり指導方法の改善点、シラバスの変更点などを浮き彫りにすることが必須である。

本学の授業「子どもと文化」では、今回のまとめを参考にはするが、さらに精査した内容を学生の実態に合致させながら実践していきたいと考える。

文献

1. 小川清美, 演習児童文化, 萌文書林, 2010